

平成 26 年度 社会福祉法人 誠真会 事業計画

【方 針】

利用者の人格を尊重し、常に利用者の立場に立った個別の介護計画を作成することにより、利用者が尊厳をもって暮らすことができるよう適切なサービスを提供する。
また、佐藤病院グループの施設との連携、地域との交流をはじめとして、家族、関係機関、ボランティア等と協力しながら地域の中の事業所を目指す。
グループホームについては、サービスの質の向上及びその評価として、自己評価・第三者評価（1年に1回）を行う。

【目 標】 常に思考しサービスを提供する。

【内 容】

- (1) 他の事業所にも言えますが、認知症対応型共同生活介護は利用者と職員のなじみの関係を大切にして、生活をすることによって、様々な行動障害を軽減し心身の状態を穏やかに保つことができます。しかし、長い間、同じ環境下の中では、「なじみの関係」から「馴れ合いの関係」に誰もが陥りやすく、また業務やサービス提供の方法についても「感覚麻痺」や経験が豊富な方ほど「思考停止状態」になりやすいことが問題でもありました。
グループホームでは、各ユニット1名～2名を異動し各ユニットの職員の入れ替えを行います。また、職員が異動することにより、各ユニットの業務の内容・仕方を知ること各ユニット間の業務やサービス質の統一を図ります。
- (2) 各ユニットに副主任を配置。事務経理の責任者として事務局長を配置。
新たに各ユニットに副主任を配置する。副主任は主任の補佐として利用者や職員の管理、教育、指導を行う。主任が不在時は、主任代行として職務にあたる。そして事務の責任者として、事務局長を配置し経理、財務などの事務を総合的に管理する。
- (3) 業務の見直し、介護サービスの改善
各ユニットのサービスの統一化を図り、ユニットごとのサービスの質の差をなくすこと。また、ユニットの連携を密にし、競い合って質の高いサービスを提供する。その為には、各ユニットの情報共有が必要となることから、各主任、副主任、管理者と施設長でミーティングを月1回行う。
- (4) 新たな人材の確保、補充
今年度は新たな人材確保を行い、ベテラン職員と新人職員をバランスよく配置する。ベテラン職員の経験と新人職員の新たな発想をもって、新たなサービスの提供に努める。

また、人材の有効活用として、ユニット担当制を改め、パート職員については、人材が不足するユニットに随時派遣するなどの効率化を図る。

(5) 職員の資質の向上を目的に研修を行う。

- ・認知症に関する研修
- ・介護職員として接遇の研修
- ・感染症予防に関する研修
- ・安全対策に関する研修

上記以外に、合同研修や各事業所で各職員に応じた外部研修を計画します。

(6) 施設環境の見直し

施設は利用者にとって毎日を過ごす場所である。その生活環境は安全で快適でなければならない。現状の施設環境を再検討し、利用者により良い生活とケアを支援する環境づくりを目指します。

(7) 利用者の確保

昨年度、グループホームの入居率 72% と大幅な収入減となりました。今年度は入居率 90% を目指す。また訪問介護事業については、24 時間サービスを提供できるように体制を整える。また入安定した利用者の確保のため、各関係機関への営業に努め、また月 1 回の営業会議を開催し、営業活動の報告と今後の営業活動の方針を検討し活動をしていきます。

(8) 健康管理、医療連携

利用者の健康管理について、隣接する長島中央病院の看護師と連携し、日常的健康管理及び医療機関との連携を図る。また、利用者が重度化し看取りケアの必要が生じた場合等における対応として 24 時間連絡可能な体制とする。

(9) 安全対策への取り組み

事故を未然に防ぐために、利用者の ADL 維持を援助すると共に ADL に適した環境の整備を心がける。また災害対策についての取り組みとして、防火、地震対策の重要性を再認識し、災害に対する意識を高め、マニュアルの再点検、定期的（月 1 回）な訓練を実施いたします。

(10) 年間行事予定

季節にあった行事を企画する（四季を通じて、できる限り外出をする）

また隣接する みどり保育園の園児と共に行事を行い園児と高齢者の交流を図る。

（スケジュールについては別紙参照）

(11) 資源の節約・財務

環境保全のために省エネルギーを心がけ、省資源と運営費削減に努める。

- ・ F A Xなどは、必要な書類に関してのみ印刷し無駄な紙を省きます。
- ・ 事務機能をアウトソーシングし効率化と運営費の削減に努めます。
- ・ 精細な室温管理を行い、過度なエアコン利用を防止します。
- ・ 電気機器、器具は、使わないときは電源プラグをコンセントから外して無駄な電力防止に努めます。